

※この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共にご紹介していきます。

Happy New Year

# 寅 2010

政策ビジョン研究センターでは昨年、設立1周年を迎え、下記の提言・方向性を発表しました。皆さまのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

- 日米欧三極知財シンポジウムへのアカデミアからの提言 2009/11
- 未来を創造する特許制度のための15の提言 2009/06
- 社会が選択するエネルギー・環境政策 2009/07
- 安心して暮らせる活力ある長寿社会の実現 2009/02

※詳細はHPをご覧ください。



## 日仏合作グライダー 100年記念講演会式典開催

当センター航空政策研究ユニットの主要メンバーである航空イノベーション総括寄付講座(CAIR)が事務局となり、100年前に日仏の3名の協力で実現した日本初のグライダーの飛行を記念して、12月9日東京大学、在日フランス大使館等の共催により、安田講堂において記念講演会と式典が開催されました。

開催報告は本誌に掲載されている通りですが、航空機開発、航空輸送、空港問題など、日本の航空は大きな転換期にあります。自由に空を飛ぶ航空は元々国際的であり、その開発製造も、解決すべき課題もグローバル化しています。この企画が、当時の日仏の協力とその後の関係が思い起こされ、国際的な連携で新たな航空イノベーションを実現する契機になることを願っています。



1. 関係者を交えて当時の様子と将来への展望が語られました。(撮影、酒井徹也)
2. 学生の手で再現されたグライダー模型。(撮影、Ken Friedl)
3. ダッソー・システムズ(株)の協力により動画として甦った100年前の不忍池での飛行。  
注)CGと模型はリチャード・アンセル氏のイラストを参考に製作されました。

### インフォメーション

## クリニカルデータ国際シンポジウム ～データ記録・保存から分析・再利用へ～

平成13年12月26日に保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザインが策定されてから、8年が過ぎました。この間、医療機関における情報化は進み、多くの診療情報が電子保存されました。また、少子高齢化がますます進む一方で、100年に一度という大不況が訪れ、医療にかかる財源不足が周知のこととなりました。

我が国の医療は、右肩上がりの成長経済を背景に、十分な財源と質の高い医療従事者の養成により、WHOの評価でも世界最高水準にあるとされてきました。しかし、近年、産科小児科や救急医療問題など医療崩壊と呼ばれる課題も明らかになってきました。いわば、医療システムの病期は、第一期の財源確保の問題から第二期の医療提供体制の問題へと進行しつつあります。そこで、豊富に蓄積されつつあるにもかかわらず上手く使われていない電子化診療情報(クリニカルデータ)を活用することで、医療の効率化や安全性の向上、エビデンスに基づいた研究開発や医療政

策決定への応用などが期待されています。

本シンポジウムでは、まず、イギリスのNHSにおけるデータ解析や米国オバマ政権下での医療IT化政策、我が国のDPCのデータ利用等を紹介いただくとともに、最新のIT研究やEUにおける個人情報保護の問題を御報告していただけます。その上で、個人情報を保護した上でのクリニカルデータの利活用について、各界の識者の方々に議論いただくパネルディスカッションも実施することと致しました。

欧米や我が国の最先端の研究者や各界の方々の英知を合わせることで、「医療崩壊を救う処方箋」ができることを期待しております。

医療界に限らず、幅広い分野の方々のご参加をお待ちしております。

日時：3月5日(金) 13:00～18:30  
場所：鉄門記念講堂(収容人数：300名程度)

### ちょっと一言

1月1日に、日経新聞一面トップ「ニッポン復活の10年/『長寿』誇れる国家モデルを」の特集記事で掲載されました。新年早々の好スタートに感謝しています。

「高齢者に焦点をあてた社会制度とビジネスモデルを確立し、アジアが追随するような戦略を描く時」と東大政策ビジョン研究センター長の森田朗(日経新聞記事より引用)

とのこと。当センターが昨年、一番最初に手掛けたテーマ(この連載の創刊号も高齢社会がテーマでした)が、このような形で取り上げられ、感慨ひとしおです。今後とも同テーマには力を入れて取り組んでいく予定です。ご期待ください。